

マーケットの動き（2023年5月29日～6月2日）

先週の国内株式市場は、前週末比で上昇しました。

米国債務上限問題に対する警戒感が和らぎ国内株式は週初から上昇しましたが、中国経済指標の悪化や月末の持ち高調整などによって過半ばにかけて下落しました。その後、月末に売られた銘柄の買戻しや米国株式の上昇などを受け、日経平均株価が約33年ぶりの高値水準となるなど国内株式は大型株を中心に堅調に推移しました。

投資環境見通し（2023年6月）

国内株式相場の上昇基調は続く

企業業績については、円安効果や内需拡大を受けて足元では概ね好調で、今後についてもインバウンド需要のさらなる拡大により堅調に推移するとみています。国内株式相場は、米国や欧州におけるこれまでの利上げによる景気減速懸念や、中国景気の回復鈍化に対する懸念が下押し要因とみられますが、新型コロナの類型変更による経済正常化が期待されることに加え、東証による株価のPBR（株価純資産倍率）が1倍を下回る企業に対する資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応の要請、米国の著名投資家の日本株に対するポジティブな姿勢などを好感した幅広い投資家からの見直し買いも予想されることから、上昇基調が続くとみています。

	6月2日	騰落率			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
TOPIX（東証株価指数）	2,182.70	1.72%	5.16%	11.71%	13.31%
日経平均株価	31,524.22	1.97%	8.12%	13.49%	14.99%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

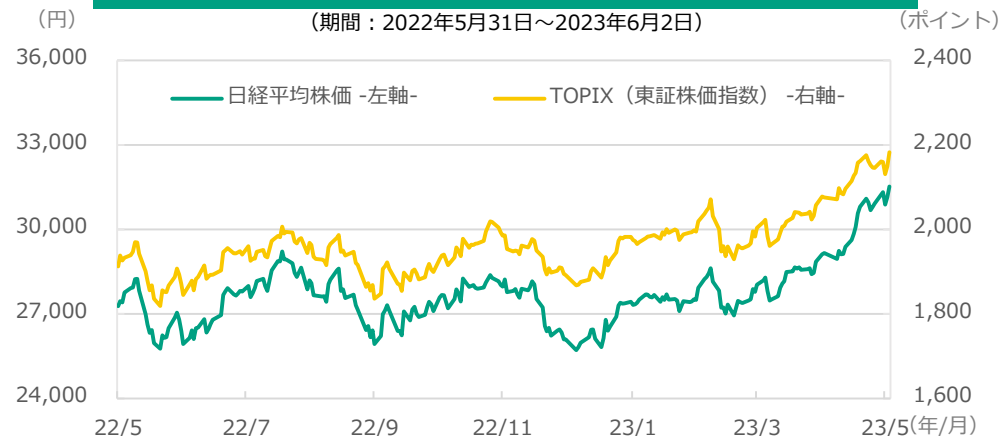
※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202306_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

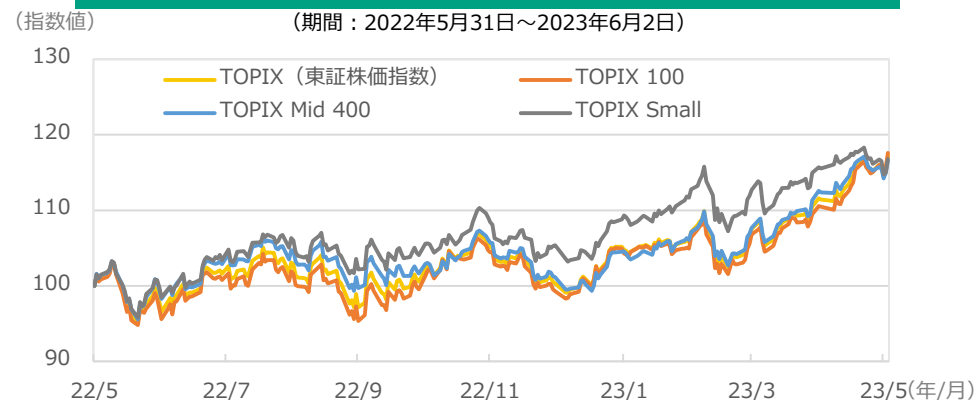
日経平均株価、TOPIXの推移

（期間：2022年5月31日～2023年6月2日）



TOPIX規模別指数の推移

（期間：2022年5月31日～2023年6月2日）



※2022年5月31日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

マーケットの動き（2023年5月30日～6月2日）

先週の米国株式市場は、前週末比で上昇しました。

週半ばにかけてFRB（米国連邦準備制度理事会）高官の利上げに積極的な発言が相次ぐ中、中国経済指標の悪化や米国景気指数の強弱入り混じる結果などが相場の重荷となりました。その後、米国債務上限問題に対する警戒感が和らいだほか、5月の米国雇用統計にて非農業部門雇用者数の改善がみられるなど、米国株式は景気敏感株を中心に上昇して週を終えました。

欧州株式市場は、おおむね米国に連動した推移となりました。

投資環境見通し（2023年6月）

外国株式相場は、米国、欧州とも上値の重い展開

企業業績については、インフレ高止まりや銀行の貸出基準厳格化への警戒感から、業績見通しの引き下げに対する懸念が残ります。外国株式相場は、米国では企業業績に対する懸念に加え、年内利下げ観測の後退による金利上昇を受けて上値の重い展開を予想しています。欧州でもコア・インフレ率の高止まりからECB（欧州中央銀行）は利上げを継続する姿勢を示しており、米国市場と同様に上値の重い展開を予想しています。

	6月2日	騰落率			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
S&P500種株価指数	4,282.37	1.83%	3.95%	5.17%	2.53%
NYダウ	33,762.76	2.02%	0.23%	▲1.94%	1.55%

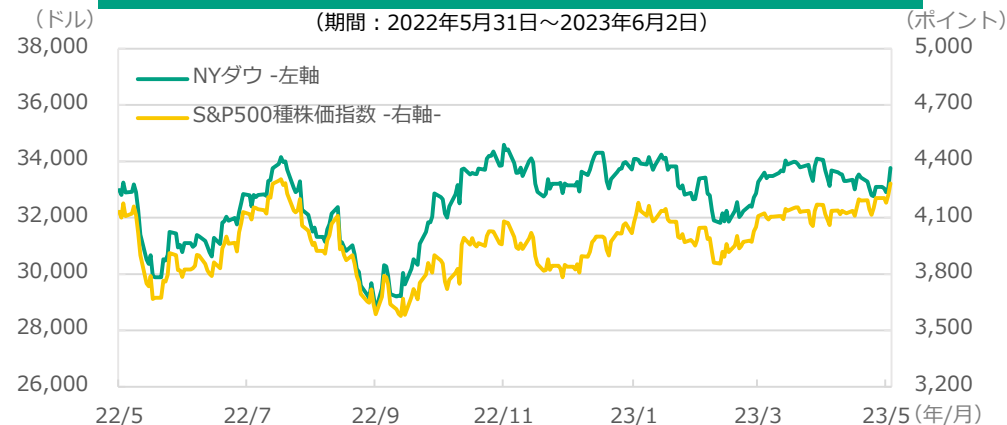
※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

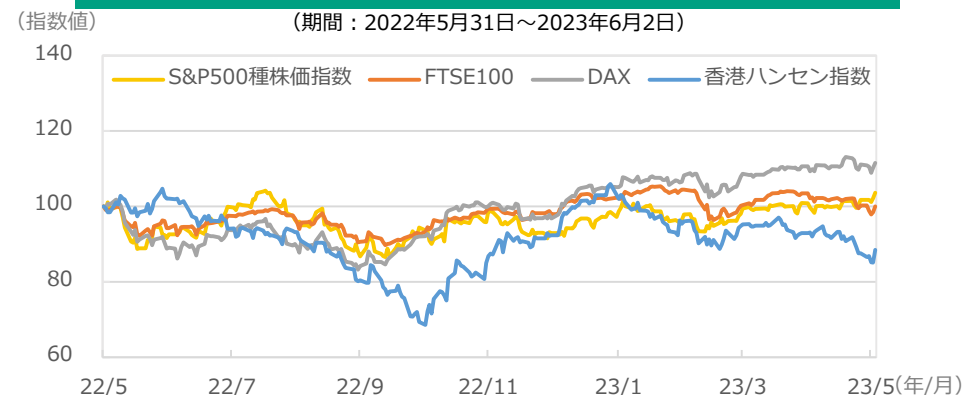
https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202306_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

米国株価指数の推移



主要国株価指数の推移



※2022年5月31日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

マーケットの動き（2023年5月29日～6月2日）

先週の国内債券市場は、前週末比で金利は低下しました（債券価格は上昇）。

日銀の超長期債買い入れオペが軟調な結果となり、週初から債券は売られました。その後、米国債務上限問題に対する警戒感が後退したほか、FRB（米国連邦準備制度理事会）高官が6月の利上げ見送りを支持する姿勢を示すなど、米国金利が低下すると国内債券も買われて長期金利は低下しました。

クレジット市場は、引き続き堅調に推移する中、足元では割高感のある銘柄もみられました。

投資環境見通し（2023年6月）

国内長期金利は上昇圧力がかかりやすい

日銀が4月の金融政策決定会合後に公表した展望レポートにおいて長期的なスパンで政策レビューを行う方針を示したことから、早期に金融政策を修正するとの見方は後退しつつあります。しかし、6月会合に向けて政策修正観測が高まる可能性もあり、長期金利は上昇圧力がかかりやすいとみています。

	6月2日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（日本、%） （変動幅）	0.41	▲0.02	▲0.01	0.16	0.17
NOMURA-BPI総合 （騰落率）	375.48	0.06%	0.22%	0.96%	▲0.97%

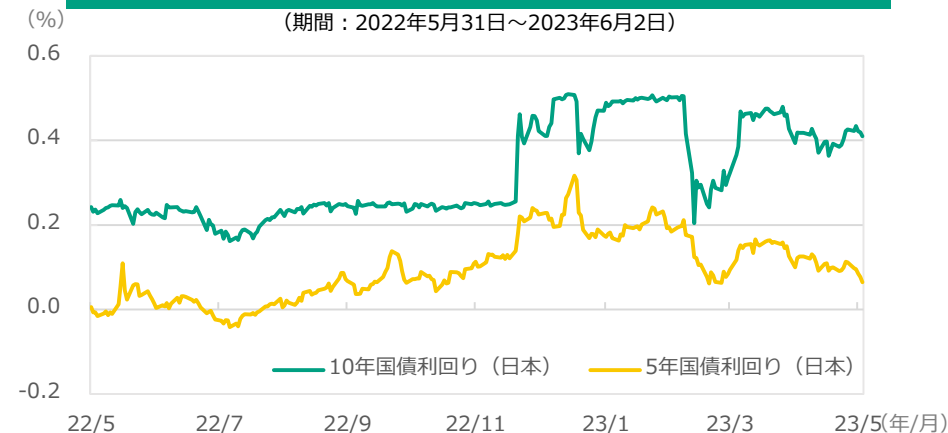
※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日（休日の場合は前営業日）までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202306_outlook.pdf

日本国債利回りの推移

（期間：2022年5月31日～2023年6月2日）



NOMURA-BPI総合指数の推移

（期間：2022年5月31日～2023年6月2日）



※2022年5月31日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

マーケットの動き（2023年5月30日～6月2日）

先週の米国国債市場は、前週末比で金利は低下しました（債券価格は上昇）。月末の持ち高調整の動きや、米国債務上限問題に対する警戒感の後退、FRB（米国連邦準備制度理事会）高官が6月の利上げ見送りを支持する姿勢を示したことなどから、米国債券は買われました。週末には、5月の米国雇用統計にて非農業部門雇用者数の改善がみられたことで債券は売られて週を終えました。

欧州国債市場は、5月のドイツCPI（消費者物価指数）が市場予想を下回るなど金利は低下しました（債券価格は上昇）。

投資環境見通し（2023年6月）

長期金利は、米国、欧州（ドイツ）ともに小幅に上昇

米国： 景気後退懸念を背景に投資家の間で利下げ観測もみられる一方、FRB（米国連邦準備制度理事会）は足元の労働需給ひっ迫やインフレ率見通しの上昇を受けて年内利下げに否定的な見方を示しています。長期金利は当面は上昇するとみられますが、景気後退懸念もあり小幅にとどまるとみえています。

欧州： 依然としてコア・インフレ率が高止まりしていることや賃金上昇圧力への警戒感が残る中、ECB（欧州中央銀行）は追加の金融引き締め必要性を強調しています。ドイツ長期金利に上昇圧力がかかりやすく、米国市場と同様に小幅に上昇するとみえています。

	6月2日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（米国、%） （変動幅）	3.69	▲0.11	0.26	0.18	0.78
FTSE世界国債インデックス 除く日本、円ベース（騰落率）	529.00	0.69%	0.46%	2.94%	3.03%

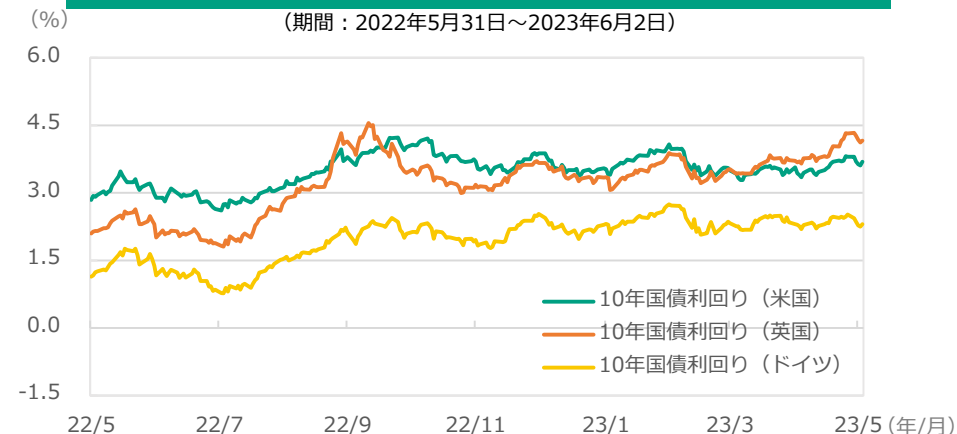
※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日（休日の場合は前営業日）までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202306_outlook.pdf

主要国国債利回りの推移

（期間：2022年5月31日～2023年6月2日）



FTSE世界国債インデックスの推移

（期間：2022年5月31日～2023年6月2日）



※2022年5月31日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

マーケットの動き（2023年5月29日～6月2日）

先週の国内リート市場は、前週末比で上昇しました。

米国債務上限問題に対する警戒感の後退で投資家のリスク選好姿勢が高まると、国内リートは買いが優勢となりました。その後、利益確定売りで一時下落しましたが、米国金利が低下したことで国内リートの投資妙味を意識した買いが入り週を終えました。

セクター別では、オフィスセクター、住宅セクター、商業・物流等セクターが総じて上昇しました。

投資環境見通し（2023年6月）

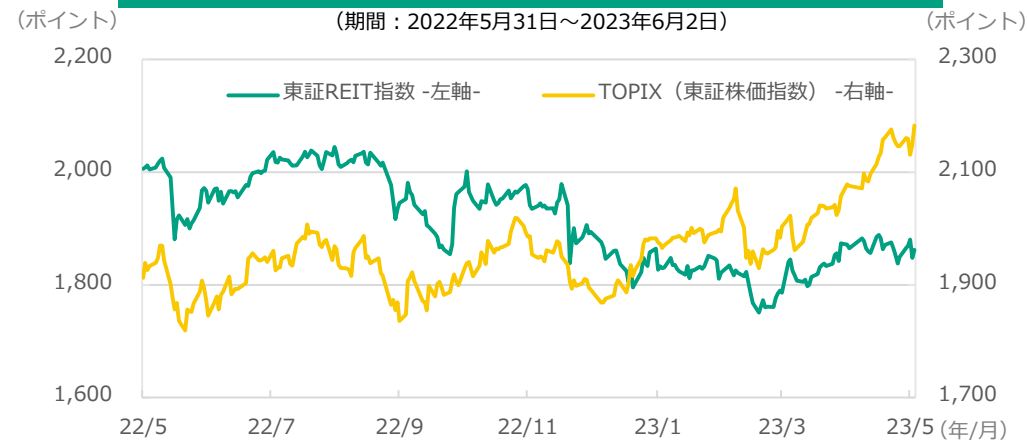
国内リート市場は、緩やかな回復基調を辿ると予想

2023年上期にビルの大量供給を抑えるものの、出社率の回復などを背景にオフィス需要に底打ちの兆しがみられるほか、国内外の人流の戻りによってホテルや商業施設、住宅の需要および賃料の回復が期待されます。現在、国内リートは割安な水準にあるとみており、オフィスセクターを中心に戻りを試す展開になると予想します。

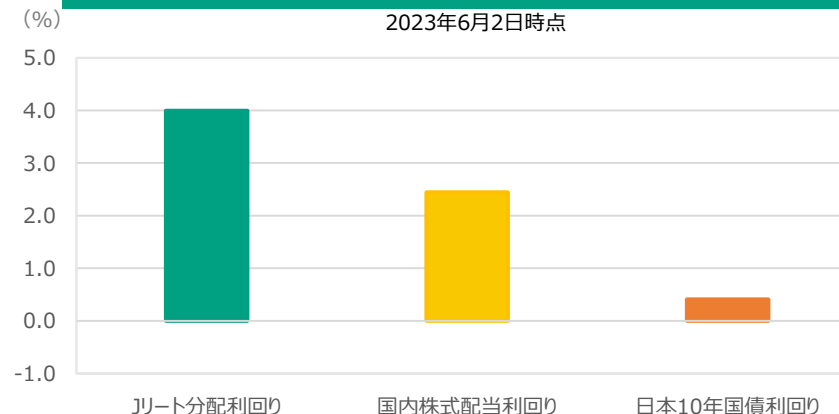
	6月2日	騰落率			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
東証REIT指数	1,862.17	0.68%	▲0.14%	▲3.75%	▲7.44%
<ご参考> TOPIX（東証株価指数）	2,182.70	1.72%	5.16%	11.71%	13.31%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

東証REIT指数、TOPIXの推移



国内各種資産利回り



※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

マーケットの動き（2023年5月29日～6月2日）

先週の為替市場は前週末比、米ドルは対円で下落（円高）しました。
 米国債務上限問題に対する警戒感の後退や、FRB（米国連邦準備制度理事会）高官が6月の利上げ見送りを支持する姿勢を示したことなどを通じ、米国金利が低下すると円買い・米ドル売りが進みました。週末には、5月の米国雇用統計にて非農業部門雇用者数の改善がみられたことで金利は上昇し、米ドルも買い戻されて週を終えました。
 ユーロは前週末比、対円で下落した一方、対米ドルでは上昇しました。

投資環境見通し（2023年6月）

米ドル、ユーロともに円に対して上昇

米ドル：足元の労働需給ひっ迫やインフレ率見通しの上昇を背景としたFRB（米国連邦準備制度理事会）の年内利下げに対する否定的な姿勢が米国金利の上昇圧力とみられることに加え、世界的な景気後退懸念を受けた基軸通貨としてのドルに対する需要が見込まれることもあり、米ドルは円に対して上昇するとみています。

ユーロ：インフレ率が依然として高水準にあり、ECB（欧州中央銀行）が追加利上げを行うとの見方もあり、ユーロは円に対して金利差拡大を受けて上昇するとみています。

	6月2日	変動幅（円）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
米ドル/円	139.66	▲0.84	3.19	4.19	9.82
ユーロ/円	149.79	▲0.61	▲0.04	7.90	10.64

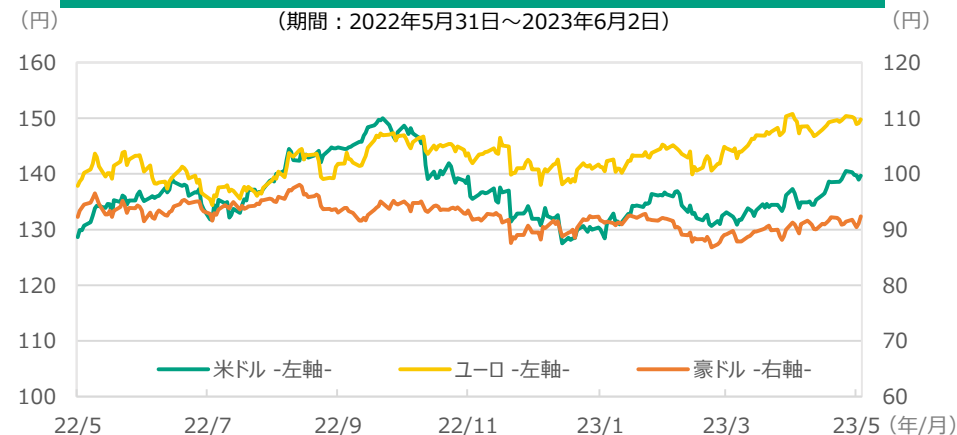
※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202306_outlook.pdf

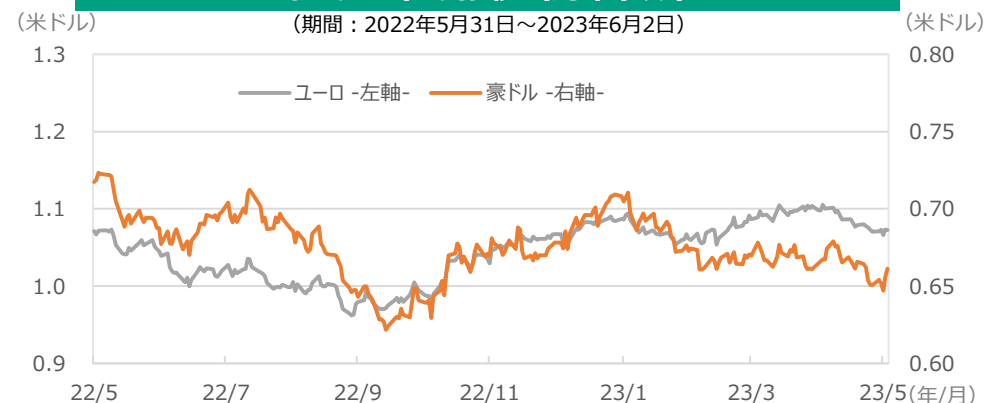
為替レートの推移（対日本円）

（期間：2022年5月31日～2023年6月2日）



為替レートの推移（対米ドル）

（期間：2022年5月31日～2023年6月2日）



※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

使用インデックスについて

●TOPIX は、株式会社 J P X 総研が算出する株価指数であり、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出されます。TOPIX の指数値及び TOPIX に係る標章又は商標は、株式会社 J P X 総研又は株式会社 J P X 総研の関連会社（以下「J P X」といいます。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など TOPIX に関するすべての権利・ノウハウ及び TOPIX に係る標章又は商標に関するすべての権利は J P X が有します。J P X は、TOPIX の指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。

●東証REIT指数（配当込み）は、株式会社 J P X 総研が算出する株価指数であり、東証市場に上場する不動産投資信託（Real Estate Investment Trust）全銘柄を対象とした浮動株ベースの時価総額加重方式により算出されます。東証REIT指数（配当込み）の指数値及び東証REIT指数（配当込み）に係る標章又は商標は、株式会社 J P X 総研又は株式会社 J P X 総研の関連会社（以下「J P X」といいます。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など東証REIT指数（配当込み）に関するすべての権利・ノウハウ及び東証REIT指数（配当込み）に係る標章又は商標に関するすべての権利は J P X が有します。J P X は、東証REIT指数（配当込み）の指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。

●日経平均株価に関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利は日本経済新聞社に帰属します。なお、日本経済新聞社は対象インデックスを用いて行われる事業活動・サービスに関し保証するものではありません。

●NOMURA-BPI総合はわが国の公社債市場全体の動きを捉えたものとして、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社により公表されている指数で、機関投資家等に広く利用されており、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社の知的財産です。野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社は当社の個々のファンドの運用成果等に関し一切責任はありません。

●FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLC により運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLC は、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLC に帰属します。

●その他当資料にて使用したS&P500種株価指数、DAX指数、FTSE100、NYダウ指数の知的財産権、その他一切の権利は、それぞれ、スタンダード&プアーズ ファイナンシャル サービスズ エル エル シー、ドイツ取引所、FTSE社、S&P Dow Jones Indices LLCに帰属します。

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。